

十四日午前八時四十分出發、午後四時十七分札幌着、大野、孫子翁を訪問、十五日大野、孫子翁を訪問、十六日入場、同日にさききめました。一即は本日

**内郷村報の  
六大使命**

- 一、政黨政治を超越して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内公私各機關の活動状況を報導し併せて其協力を計り、進歩和進歩の實現を期す。
- 三、本村社會事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事善行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民慈善に當る。

**内郷村報**

天法人則  
從順ナ則  
ルベシ

**振興委員會に望む**

本紙既報の通り、我内郷村に於て、縣令に基き、振興委員會が設置せられ、其委員として、六十余名の任命を見、それによつて其陣容が整へられた。此一文は十一月十三日村會議事堂に於ける、其辭令傳達式後、記者が座談的に發表したる意見の大意を敷衍補正したるものである。

**大内民惠**

であるかを、徹底的に調査研究して、其仕事を完成する爲に、根本的方針を確立して、之に向つて勇往邁進すべきであると思はれる。先づ一身を立てるに於ても、其天分、其境遇、其資力等を、具さに討究して、立身處世の方針を決定して、一家を經營するに於ても、其家業、其資産、其家族、其時代等を委しく調査して、其興隆を圖るを以て、其興隆を圖る

大學の第一章に「古ノ明德ヲ天下ニ明カニセント欲スルモノハ、先ツ其國ヲ治ム。其國ヲ治メント欲スルモノハ、先ツ其身ヲ治ム。其身ヲ治メント欲スルモノハ、先ツ其心ヲ正ス。其心ヲ正ウセント欲スルモノハ、先ツ其意ヲ誠ニス。其意ヲ誠ニセント欲スルモノハ、先ツ其知ヲ致ス。其知ヲ致スハ物ニ格ニ在リ。格物、何れも仕事をすることには、其仕事が、ごんな物

**會員二百名募集**

- ◇一家を更生せんとする
  - ◇一身を立てんとする
  - ◇詳細は申込み次第
- 磐城炭礦従業員寄宿舎  
大正十二年創立  
七年会  
福島縣石城郡内郷村(常磐線)

本報發行は内郷一家の事業にして、其の社務は子孫に對する遺言を遺するものなり。

本報發行は内郷一家の事業にして、其の社務は子孫に對する遺言を遺するものなり。

昭和三十二年度内郷村入營者

昭和三十二年十一月一日入營

植田三之助	佐藤幸一	佐藤仙太郎	渡邊幸太郎	高野徳宜	名和善二	大波辰雄	草野善二	坂本善二	菅野善二	折野善二	濱野善二	舟木善二
長崎末吉	星野末吉	大黒末吉	目黒末吉	高橋末吉	阿部末吉	生田末吉	牧田末吉	村上末吉	江上末吉	佐藤末吉	高橋末吉	水口末吉
勝野末吉	竹本末吉	久保末吉	雄谷末吉	清野末吉	三浦末吉	正木末吉	美濃末吉	松本末吉	直木末吉	末吉末吉	山崎末吉	吉野末吉

昭和三十二年十一月一日入營	昭和三十二年十一月十日入營	昭和三十二年十一月十日入營	昭和三十二年十一月十日入營	昭和三十二年十一月十日入營	昭和三十二年十一月十日入營	昭和三十二年十一月十日入營	昭和三十二年十一月十日入營	昭和三十二年十一月十日入營	昭和三十二年十一月十日入營	昭和三十二年十一月十日入營	昭和三十二年十一月十日入營	昭和三十二年十一月十日入營	昭和三十二年十一月十日入營	昭和三十二年十一月十日入營	昭和三十二年十一月十日入營	昭和三十二年十一月十日入營	昭和三十二年十一月十日入營	昭和三十二年十一月十日入營	昭和三十二年十一月十日入營	昭和三十二年十一月十日入營																		
植田三之助	佐藤幸一	佐藤仙太郎	渡邊幸太郎	高野徳宜	名和善二	大波辰雄	草野善二	坂本善二	菅野善二	折野善二	濱野善二	舟木善二	長崎末吉	星野末吉	大黒末吉	目黒末吉	高橋末吉	阿部末吉	生田末吉	牧田末吉	村上末吉	江上末吉	佐藤末吉	高橋末吉	水口末吉	勝野末吉	竹本末吉	久保末吉	雄谷末吉	清野末吉	三浦末吉	正木末吉	美濃末吉	松本末吉	直木末吉	末吉末吉	山崎末吉	吉野末吉

納税組合に就いて

田口淳三

本村の納税組合は、現在四十二で、組合員は九百八十人である。其内で創立の最も古いのは、上綴一七組合で、大正十四年である。又組合員の最も多いのは、宮金坂組合で、四十八人を有して居る。吾が高坂仲平納税組合は、本年三月の設立で、組合員は十三名に過ぎないが、組合員は何れも組合本来の使命を認識して、成績は頗る良好である。之れが一例として、面白い佳話がある。十月の集金當番は、四家喜兵衛君であつた。二十日夜に入つて、納付の爲め余の家に来られたのであるが、其時の話に、「此集金袋を提げて行くに挨拶もせぬうちに、待つて居ましたとばかりに、掛金を出して呉れられる」との事であつた。集金が樂々こんなに出るものも、各々心掛一つである、深く考へさせられた。何といつても納税を完全に履行せしめるには、納税組合を設けるのが一番である。納税組合は滞納を防ぐ最良唯一の方法である。

大橋訓導の榮譽

昨年九月、文部大臣より青年訓練功勞章を授與せられたる、第三小學校訓導大橋貞勝氏は、又もや去る十一月三日、陸軍大臣より表彰の光榮を得た。其表彰狀は別項掲載の通りである。

文部大臣表彰

福島縣・大橋貞勝 多年青年訓練ニ盡瘁シ其ノ功勞洵ニ顯著ナリ仍テ青年訓練功勞章ヲ授與シ之ヲ表彰ス 昭和十年九月三十日 文部大臣正三位勳二等 松田源治

陸軍大臣表彰

陸軍歩兵伍長 大橋貞勝 多年力ヲ青年訓練ノ振興ニ効シ貢獻スル所尠カラズ仍テ記念品壹個ヲ授與シ茲ニ之ヲ表彰ス 昭和十一年十一月三日 陸軍大臣伯耆 寺内壽一

方面事業取扱數

十一月中に於ける方面委員の取扱ひたる件數は、生活扶助、法令に依るもの、二七。保護救療、法令に依るもの、一。兒童保護、法令に依らざるもの、三六。相談指導、二九。戸籍整理、四。職業其の他の紹介、二九。教化、一七。其他二。計一四五。カード登録世帯及人口、第一種、世帯三五。人口一三一。第二種、世帯七九。人口三六五。第一種より第二種へ、世帯一、人口二。生活安定、世帯一、人口六。死亡、世帯一、人口一。以上

養老院

本紙既報、本社社會事業助成會に於て、御歴久世原に創建せらるゝ事になつた養老院は、十一月二十一日田口山下廣木齋藤の四建築委員、野木地主、佐藤請負主渡邊書記等參列の下に、地鎮祭を行ひ、同二十七日には、金澤助役、建築委員佐藤請負主參列して、上棟式を行ひ、次いで井戸掘りも完成、十二月二日より壁塗天井張り等の造作にとりか、り、此程竣工し、追つて落成式を舉行し、救護者を收容する豫定である。

講演聽講

仙臺鑛山監督局主催で、明年一月より實施せらるゝ、鑛山従業者の退職積立金及退職手當法施行に關する講演會が、社會局高橋事務官を講師として、十二月十一日仙臺市に開催せられたので、磐城炭礦からは、濱崎善三郎、齋藤祐治、上原四郎、石橋弘毅、田中義枝の五氏出張之々聽講した。

田中氏奥羽一巡

新たに従業員募集事務主任となつた、磐城の田中宇一郎氏は、十一月十七日より約二週間、奥羽六縣及北海道の一部を一巡、視察を終了した。

縣道修理陳情

縣道綴高野線は、本年縣道に編入されたが、綴地内の國道から分岐する、村内の路面及び橋梁の悪い處が多いので、之が至急調査應急修理方を、十一月十八日、沼田村長外關係部民代表三名が、平土木監督所に出頭陳情に及んだ。

八十二嬭の特志

磐城の鍛冶工岩崎義美氏は、敬神崇祖の念篤く、社會事業奉仕の心深き、篤行家たる事は、本紙上に於て屢々報道する處なるが、此度は又、職務之余暇に自ら作製した竹箒五十本とタワシ數箇を、第三小學校に寄附し關係者を感激せしめた。

八十二嬭の特志

宮竹の内鈴木とめ子刀自は八十二歳の高齡にもかかわらず、自作の雑巾五十枚を第三小學校に寄贈、其特志を喜ばれて居る。

- 本紙贊助金寄贈芳名 金拾圓 東京 岡部正樹 金壹圓 江ノ 遠藤與茂之丞 金貳圓 岐阜 山田將爲 金壹圓 川平 高橋庄之介 金壹圓 小島 鈴木忠治

日本評論社

發行所 東京三丁目 内郷村報社

教育制度改革概論

矢野恒太郎 大内民憲 著 矢野之吉 編輯 (四六版二一頁 定價五十錢 郵税六錢)

修養團講習會記

武藤義造

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實效とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同枚舉に違あらず。未だ一人の抗議者も現はれず。

腸チブス

十一月十日本村に腸チブス患者の發生したるを發見、磐城例患者は綴避病院に...

我國教育學界の權威

前京大總長小西重直博士 著 寄せて曰く、多年ノ御體験下實地ノ御試練ニ基ク直學團ノ大精神ヲ拜味仕テ不屈奮闘ニ打メ申候云々。

發行所

取次所

仕事に限り、いくらか金が... 十分迄に、出勤簿に捺印して、仕事に取りかゝる。九時より二十分休憩、學課のある時は、十一時より十二時上り、食費。午後一時出動、三時より十五分休憩、四時三十分上り、直ちに夕...

のが一番である。納税組合は滞納を防ぐ最良唯一の方法である。

十一月中に於ける方面委員の取扱ひたる件数は、生活

昭和十一年十二月十五日

瑞芳寺執事

金壹圓 江名 遠藤與茂之丞

教育制度改革概論

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實踐とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同枚舉に違あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威 前京大總長小西重直博士

發行所 日本評論社 東京三丁目

修養團講習會記

磐城支部理事 武藤義造

十二月十二日—十三日 一場所 赤井嶽 常福寺 一、參加支部員 十六名

種畜場通信(二)

北海道廳立真駒内種畜場實習生

大内二郎

午後一時綴驛前に集合、自動車にて平驛に到り、會津人會と共に、午後一時五十分平驛着の、蓮沼主幹大槻秘書一行を迎へ、マルトモホールにて少憩、自動車にて赤井嶽迄到り、主幹を先頭に、之を出迎へられ



二郎の發出の光景 清水山莊 前畜舎

拜啓 本日無事單身入場致しまして、御安心下さい。大野様宅へ北大教授大野川侯郵便局長令息(二)に泊、記念にも長靴まで戴



日光見物 水清 内大 黒川 子民 谷藤 幡巻

日光見物 日光は故友巻幡六君の長男で、其後我降下にあつて成長しつ、其の跡である。(長息)(民恵) 十月十九日に、亡き父の親友であ

腸チブス 十一月十日日本村に腸チブス患者の發生したるを發見、警炭例患者は綴驛病院に、村例患者は村の避病院に收容して、極力療養に努めた結果、警炭例一〇一人、外にバラチブス三、村例五人、計一五三人を算した患者も、漸次全治退院して八下、在院患者は警炭例四人、死亡者は兩側五人宛で計一〇人である。

十分迄に、出勤簿に捺印して、仕事に取りかゝる。九時より二十分休憩、學課のある時は、十一時より十二時上り、晝食。午後一時出勤、三時より十五分休憩、四時三十分上り、直ちに夕食。其後九時迄自由行動、自習外出就業共に可。 札幌商業の商教育が、時折宿泊訓育方面を受け持たれ、教育主任は森山技師です。

瑞芳寺執事 發行所 日本評論社 東京三丁目 取次所 内郷村報社

